

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～質問！！ 次の（ ）に当てはまる語句を答えなさい。

「仕事」とは・・・（ ① ）に「（ ② ）」える「事」である～

さて・・・県高生は・・・（ ① ）（ ② ）に何が思い浮かびましたか？  
やがて・・・社会に出て、仕事に就くことになる県高生へ・・・

僕のこれまでの仕事人生の中で、一番うれしかった報酬は・・・1万円です。200万でも20万でもなく1万円です。

お正月。お年玉ではなく、自営業だった父の年末年始の手伝いをして1万円もらったのです。何に使ったのか覚えていません。

とにかく、父が自分を一人前として扱ってくれたことがものすごくうれしかったのです。

**「役に立った！だから報酬をもらったんだ！」**

自分の働きをみとめてくれたことに僕は感動したのです。

いま思えば、このときに大人の一步を踏み出したような気がします。

人の役に立てたとはじめて実感できたとき、まさに「人生意気に感ず」でした。

経営の神様といわれた松下幸之助さんはこう言っています。

「9歳で丁稚奉公して、はじめて5銭もらったことが一番うれしかった」

松下電器（現パナソニック）を創業し、巨大な資産（5000億円）を築いた松下幸之助。

でも一番うれしかったのが初めてもらった5銭だということです。

5銭といえば、当時の饅頭5個分です。

式に表すと・・・・・・・・・・ **饅頭5個 > 5000億円**

働く喜びは、お金を得ることだけではありません。

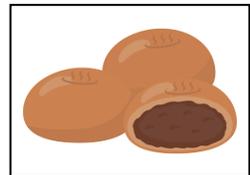
**本当に大切なのは・・・「自分が役に立っている！」という実感です。**

その対価としてお金をいただいているのです。

SONYの創業者、井深大（いぶかまさる）さんは・・・「仕事の報酬は・・・仕事」と言っています。

人の役に立っているから、仕事がまたいただけるという発想です。

「運命の流れを変えるしあわせの『スイッチ』」ひすい ことろう・ひかみ たかひろ」（王様文庫）



9歳の少年、松下幸之助にとって、5銭というのが、初めて社会の役に立ったという実感だったのかもしれないね。それが・・・日本を代表する大企業の原点になっているのです。

私たちも原点を・・・もう一度・・・思い出そう！

何かをやって喜ばれたことを・・・感謝されたことを・・・その時の感動を。

誰かの役に立てるということは、私たちが考えている以上に素敵なことなんです。

さて…答え合わせです

「仕事」とは・・・(①誰かに)・・・「(②仕)」える「事」と書きます。

集団（クラス・部活動・学校行事・学校・家族・地域・日本・世界）の中で・・・  
**役に立てる喜び**・・・この県立伊丹の高校生活で、たくさん経験し、感じてください。「ありがとう！」が飛び交う県高であり続けたいものです。

